

その手を離すな！

長崎・沖縄ばかりでなく、小中学生の関わった犯罪・非行があとをたたない。少年法の改正を求める声もあるが、解決策はそんなことではないだろう。

「(年齢に)『つ』のつくあいだの事故は親の責任だよ」実家の母から常々言われていたことであるが、最近の事件を見ていてよく思い出される。

4『つ』の子供をひとりでゲームコーナーに遊びに行かせたり、車の中に置き去りにしてパチンコに行ったり、およそ親としての自覚のない行動が問題なのではないか。「10分ほど・・・」という時間の問題などではない。ただ単に付いて見ているのが面倒なだけなのであろう。そもそも小さな子供がいる間は外食や買い物も気ままに出かけることなどできない。その不自由さは覚悟しなければならないのである。

車で幼稚園の近くを通るときなどは、いつも冷や冷やしている。車が近づいているのに子供の隣に親がいないのである。なぜ常に手を引いていないのか。

こうした親の行動は小学校高学年から中学になると、別に意味で「手を離す」ようになる。子供の自主性を伸ばしたいという言い訳で「放任」へと変わっていく。勉強の事には口うるさくても、言葉遣いや公衆での行儀態度には全く無頓着な親も少なくない。幼いころにわがまま気ままに育った「王様」は、中学生にもなれば、夜独りで出かけようが、プチ家出しようが、もう何の枷もはめられない傍若無人な「無法者」になっていく。

子供は生まれながらにして善であるという考え方もあろうが、生物としてのヒトは生まれながらにして善悪の価値観を備えては生まれてこない。あくまでもそれらは他の人(親や大人・友人)に接して培われ、備わるものである。ヒトは人の間で教育されることで人になる。だから人間と呼ぶのではないのか。

誰が何と言おうと親は自分の子を養っている以上、絶対に子供より上の立場にいないなければならない。またそのための精進をしなければならない。必ずや子供は親の倫理観、価値観をみて育つものであるからである。だから、親であるものはたやすく子供に乗り越えられてはいけない。全力でわが子に立ち向かい、命がけで育てる義務が親にはあるのだ。

高森台中学 1学期期末テスト結果

		英語	数学	理科	社会	国語	5科目計
中3	塾生平均	81.9	86.1	78.8	81.6	73.0	401.4
	学年平均	62.0	68.4	55.8	72.3	63.4	323.3
中2	塾生平均	86.6	89.4	90.6	87.6	87.0	441.1
	学年平均	49.7	56.5	62.4	59.2	69.7	298.7
中1	塾生平均	92.0	88.3	77.7	78.7	64.5	401.2
	学年平均	66.8	64.2	48.9	47.0	49.1	276.4